

西南日本の深部低周波微動・短期的スローリップ活動状況その2 (2008年1月東海地域)

- 長野県南部で発生し、愛知県北東部に移動
- 昨年6月以来半年振りで、前回より活動範囲が広い

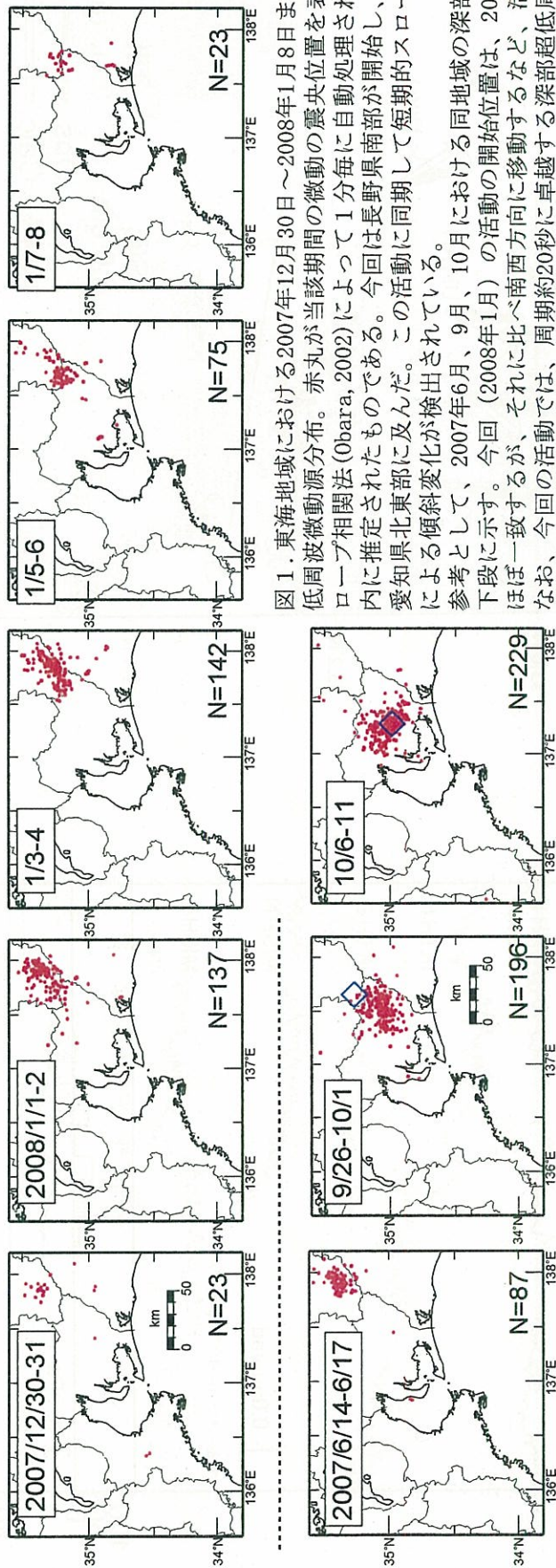


図1. 東海地域における2007年12月30日～2008年1月8日までの2日間毎の深部低周波微動源分布。赤丸が当該期間の微動の震央位置を表す。震央はエンベロープ相関法 (Obara, 2002) によって1分毎に自動処理された中で誤差が1km以内に推定されたものである。今回は長野県南部が開始し、南西方向に移動し愛知県北東部に及んだ。この活動に同期して短期的スローリップイベントによる傾斜変化が検出されている。参考として、2007年6月、9月、10月における同地域の深部低周波微動源を下記に示す。今回 (2008年1月) の活動の開始位置は、2007年6月の活動とほぼ一致するが、それに比べ南西方向に移動するなど、活動の規模は大きい。なお、今回の活動では、周期約20秒に卓越する深部超低周波地震 (青菱形) (Ito et al., 2007) は検出されていない。

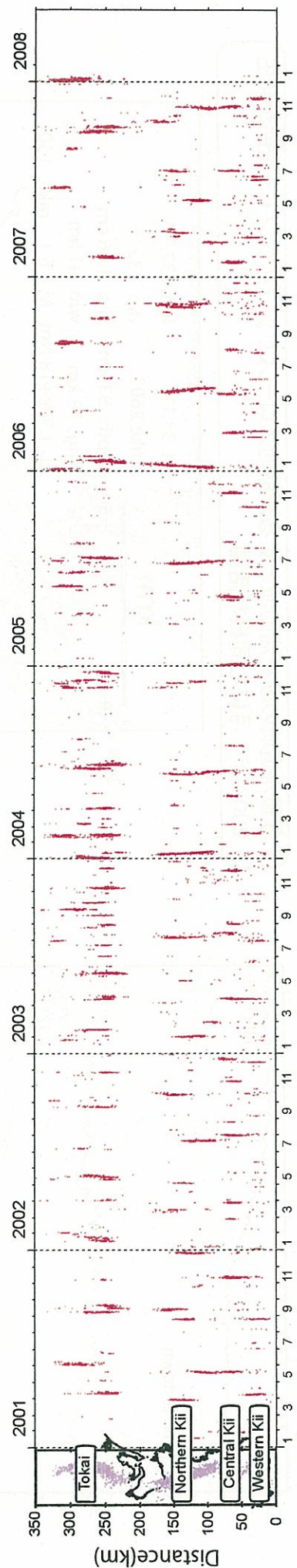


図2. 東海地域・紀伊半島における2001年からの深部低周波微動時空間分布。